

礼拝のしおり (2020年9月号)

～主の御前に一つにされて～

イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまりに多くて、もはや網を引き上げることができなかった。

(ヨハネによる福音書 21 章 6 節)



教会附属角笛幼稚園では、パーティーションを使ってお弁当の時間が再開しました。

主の聖名を讃美いたします。

新型コロナウイルスという目に見えない小さなものによって、私たちの日常生活、また教会の歩みが大きな影響を受けるようになって、半年が経ちました。この半年間を振り返る時、すぐに私の心に浮かぶのは、4月12日のイースター礼拝から2か月余りにわたって、礼拝堂に集うことに大きな制限をかけざるを得なくなったことです。主のご復活を皆で祝うべきイースター礼拝を捧げようというときに、「礼拝に集うことを控えてください」と連絡しなければならない。初めて経験する事態に戸惑い、自分の中でなかなか整理がつきませんでした。

ヨハネによる福音書第21章1節以下には、ご復活なさった主イエスが弟子たちに姿を現された三度目の出来事が語られています。「わたしは漁に行く」、そう語ったペトロを含めて7人の弟子たちが、湖へと漁に出かけて行ったのでした。既に二度、ご復活の主との出会いを与えられていた弟子たちの喜びに満ち満ちた姿がそこにあったかという、必ずしもそうではないように感じます。かつて主イエスに従う歩みにおいて、片時も離れず、目に見えるお姿で自分たちの傍らにおられた主イエスを、いつもその目で見ながら日々を生きる生活とは大きく違う状況の中で、まだどのように自分たちが歩んでいったらよいかが見えないでいる弟子たちの姿がここにはあるように思います。しかし、このような日々の中でも生きなければならない。その糧を得るために、弟子たちは湖へと向かい、舟に乗り込んで漁をしたのでした。

けれども、夜通し漁をして、魚は一匹も取れませんでした。心も体も疲れ切って、弟子たちは舟の上で夜明けを迎えることになりました。その時、岸边から、弟子たちに呼びかける声がありました。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」。岸に立っておられた主イエスからの語り掛けでした。舟の上の弟子たちは、まだそれが主イエスだとは分からないでいる中、その声に従うと、網を引き上げることができないほどのおびただしい数の魚がかかったのでした。その出来事の中で、岸边に立つ御方が主イエスだと分かって、ペトロをはじめとする弟子たちは、ご復活の主イエスとの三度目の出会いを経験したのでした。

私がいつもこの箇所に触れる度に思うことがあります。それは、主イエスが岸边におられたのはいつ、どの時点からであったのだろうかということです。もしかすると、弟子たちが夜通し漁に取り組むその間、ずっとではなかったのか。弟子たちがまだ分からないところで、既に岸边に立っておられたというご復活の主イエスの御姿は、主イエスが弟子たちを片時も忘れずにご自身の眼差しの中に置いていてくださることを表している御姿なのだと思います。

新型コロナウイルスの影響下に置かれたこの半年の間、この『礼拝のしおり』を作成し、主日礼拝の説教の動画を視聴できるようにする等、今まで行っていなかった新しいことを行うようになりました。それらを通じて、今まで接点がなかった方々との出会いを経験させられている半年間でもあります。多くの制約、逆境というべき条件が揃っているような中で、私たちの傍らにお立ちくださる主イエスは、「網を打ちなさい」と語り掛け、新たな思いをもって伝道の使命へ向かうように、私たちを遣わしていただく。半年を経た今、そのことを思わされています。

◎9月20日以降の主日礼拝の予定

礼拝の予定	聖書・説教題	交読文	讃美歌 21
9月20日(日)	ゼカリヤ書 8章 18～23節 マタイによる福音書 9章 14～17節 「新しいぶどう酒は新しい革袋に」	詩編 90編	7, 358, 452, 28
9月27日(日)	説教者 坂本 牧仁 神学生 聖書・説教題等は未定です。	未定	未定
10月4日(日)	イザヤ書 40章 27～31節 マタイによる福音書 9章 18～26節 「人を生き返らせてくださる主イエス」	詩編 77編	11, 404, 475, 26
10月11日(日)	イザヤ書 42章 18～25節 マタイによる福音書 9章 27～34節 「その目で何を見るのか」	詩編 36編	19, 458, 474, 27

☆9月20日～10月11日の主日礼拝、その他について（お読みください）

新型コロナウイルスの感染防止を考慮しつつ、9月20日～10月11日の高井戸教会の主日礼拝、その他の諸集会については、以下のとおりといたします。

◎主日礼拝について

現在、主日の礼拝を、第一礼拝（午前9時30分開始）と第二礼拝（午前11時開始）の2回に分けて行っています。礼拝堂での礼拝に出席希望の方は、いずれかの礼拝にご出席ください。礼拝出席者は受付で手指の消毒をし、可能な限りマスクの着用をお願いします。また、礼拝堂の中で互いの距離を保って着席していただくために、ベンチに赤いシールと白いシールを貼っています。第一礼拝に出席された方は赤いシールのすぐ後ろの席に、第二礼拝に出席された方は白いシールの後ろに座っていただきます。その他にも、礼拝後の礼拝堂からの退出の仕方等、ご協力をお願いしていることがあります。感染防止を考えてのことですので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

なお、健康等の理由やそれぞれのご事情から礼拝出席をためられる方々は、どうぞ無理をなさらず、ご自宅でお祈りください。また、礼拝出席を希望される方も、当日、ご自身で体調をよく確認し、少しでも不安がある場合は、ご自宅でお過ごしくださるようお願いいたします。

今後も、「礼拝のしおり」の発行を継続します。また、主日礼拝における説教の動画も、引き続き教会ホームページから見られるようにいたします。

年間計画では、9月27日に秋の伝道礼拝と信徒セミナーを行う予定でしたが、残念ながら中止となります。

◎子どもの教会、その他の諸集会について

子どもの教会は、幼小科は現在休止中ですが、中高科は毎月1回のリモートでの礼拝と交わりが始まりました。

現在のところ、9月中も多くの集会は中止となる見込みです。再開する集会がある場合は、週報や教会ホームページを通してご確認いただけるようにいたします。

◎臨時教会総会の予定

2020年定期教会総会は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、書面決議による開催となりました。その際、長老選挙に関しては、2020年度内に臨時教会総会を開催して行うことが決議されました。今後の状況を踏まえてのことではありますが、10月～11月のいずれかの主日の第一礼拝と第二礼拝の間の時間帯（午前10時20分～10時50分）に、臨時教会総会を開催し、長老選挙を行う予定です。日程が決まり次第、週報に公告を掲載しますが、連絡網でもご連絡いたします。どうぞお覚えください。

「なぜ怖がるのか」（マタイ 8 章 23～27 節） 牧師 七條真明

キリスト教会が、その歩みの中で、自らを表すシンボルとして用いてきたものの一つに「舟」があります。主イエスと共に弟子たちが乗っている舟。それが「教会」を意味するものとして捉えられたのです。

主イエスは、弟子たちに「向こう岸に行くように」とお命じになりました。主イエスが乗り込まれた舟に、弟子たちも、主に続いて乗り込みます。そして、舟は、向こう岸を目指して、ガリラヤ湖の沖へと出て行ったのでした。しかしやがて、主イエスと弟子たちの乗った舟は、ガリラヤ湖の上で激しい嵐に遭遇することになりました。その激しい嵐の中で、舟は今にも波にのまれそうになるのです。舟に乗っていた弟子たちのうち、少なくとも4人は、もともとガリラヤ湖の漁師であった人々でした。今まで、ガリラヤ湖において、漁師としてさまざまな経験をしてきたはずですが、しかし、この日の嵐は、彼らがかつて経験したことがないほどの激しいものであったということでしょうか。吹き付けてくる激しい嵐に舟は大きく揺れ、舟の中に入って来る水を一所懸命にかき出しても、それ以上の水が一瞬にして入ってくる。そのような状況だったのではないのでしょうか。

「そのとき、湖に激しい嵐が起こり」と述べられる「嵐」と訳される言葉は、「地震」を意味する言葉でもあります。湖面を進む彼らの舟は、大きな地震が起こったかのように、大きく揺れ、舟の中にある彼らは立っていることができないほど揺さぶられたということでしょう。

私たちの人生の途上においても、さまざまな出来事が起こります。多くの場合、私たちは、自分の経験や知識を用いて、それらの出来事を通り抜けていきます。しかし、突然、足元から大きく揺さぶられるような出来事に、私たちは、時に出遭ったりするのです。今、私たちが置かれているのも、どうも短期間では収まりそうもない嵐の中だと言ってもよいのではないのでしょうか。私たちの目には見えないウイルスによって引き起こされている嵐です。私たちが乗る教会という舟も、この嵐の中で大きく揺れています。そして、このような嵐に遭うと、私たちの誰もが問わずにはおれません。神さまは何を思っておられるのだろうか。このような中でも、神さまを信じて生きるとはどういうことなのか。教会という舟に乗る私たちの心も揺れます。大きく揺さぶられる。そういうことが起きるのです。この時の弟子たちにとっては、「向こう岸に行くように」との主イエスのご命令に従って乗った舟でした。主イエスに従う道に生きる。そこで激しい嵐に遭うのです。主イエスに従う道では、むしろそのような出来事に遭わずに済むはずではなかったのか。教会に生きる私たちの人生において、それぞれが嵐のような出来事に遭遇するとき、信仰の心が足元から激しく揺さぶられる。そのことを、教会に生きる誰もが経験してきたに違いありません。

しかし、弟子たちが、主イエスのご命令に従って乗った舟の中、自分たちの手ではどうすることもできない激しい嵐に遭遇して、彼らはそこで何を見たのか。マタイ福音書は、実にシンプルな形で、そのことを伝えてくれます。「イエスは眠っておられた」。

嵐の中で、舟が大きく揺れ動き、波にのまれそうになる中でも、眠っておられる主イエスの御姿です。それは、弟子たちにとっては、驚きの光景でありました。弟子たちは、主イエスを起こして、「主よ、助けてください。おぼれそうです」と叫びます。眠りから目覚められた主イエスは、弟子たちに「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ」と言われ、起き上がられると「風と湖とをお叱りに」なった。すると、それまでの嵐が嘘のように収まったのです。

主イエス・キリストは、私たちをのみ込もうとする罪と死の力、その滅びの力から、救い主として、十字架にご自身の命を捧げて、その嵐から守ってくださる。だから、私たちは滅びない。どれほど大きな滅びの力、激しい嵐だと思わずにはおれない出来事の中でも滅びない。そう信じて歩むのです。さまざまな嵐のような出来事に遭遇するときにも、激しい嵐の中で平安のうちに眠ることができる主イエス、御言葉をもって嵐を鎮めることがおできになる御方が、教会という舟に乗る私たちと共に乗ってくださる。嵐の中でも眠ることができる平安。激しい嵐によっても決して破られることがない平安。その主の平安のもとに私たちは生きているのです。